

市立

いちかわ 自然博物館だより

2010年度

12-1月号

(通巻 131号)

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！

いきもの
写真館



撮影：土居幸雄さん

トラツグミ
冬はツグミ類の姿が目につきます。虎縞模様のトラツグミは野外では案外、保護色です。珍しくて人気もあります。

P 1 ● いきもの写真館
トラツグミ

P 2 ● 長田谷津 いきもの暦
3 12月・1月の暦から
12月3日 アカバナの実

ほか

P 4 ● 拡大花図鑑
その10 ヤブガラシ
(蜜を満たした皿)

P 5 ● 街かど自然探訪
東大和田 駐車場のスズメ

● くすのきのあるバス通りから
キツタの花

P 6 ● 自然博物館 スポットライト
11月の企画展より

カブトやクワガタの幼虫

ほか

P 7 ● わたしの観察ノート
9月～10月ごろの記録

P 8 ● 行事案内



● 12月3日 アカバナの実

アカバナは、秋の長田谷津のところで見られる湿地の花です。花はピンク色で可憐な姿ですが、熟した実が割れてタネが現われる冬の様子にも人気があります。

アカバナのなかまは、花の下側に長い子房があります。一見すると、長い柄の先に花が咲いているようです。冬になるとこの子房が熟して裂け、中から銀色の綿毛のついたタネが顔をのぞかせるのです。

秋の花盛りが過ぎて湿地が枯れ草に覆われ始めると、つい草刈りをしたくなります。そこをこらえて待っていると、茶色く枯れたアカバナの株で素晴らしい出会いがあるのです。



● 12月11日 越冬するウラギンシジミ

ウラギンシジミは、成虫の姿で冬越しをする蝶です。長田谷津では、シラカシやネズミモチなどの常緑樹の葉に止まっていることが多く、緑色の葉に白い翅なので、案外、目立ちます。キタテハやルリタテハが枯れ葉模様の翅（裏側）で風景にまぎれて越冬するのはずいぶん違ってきます。

ただ、春まで同じ葉で越冬するわけでもなさそうです。木の葉からはやがて見えなくなりますし、以前、斜面林を真冬に歩いた時は、林床の落ち葉にまぎれて「ころがっている」成虫を見つけたこともあります。いずれにしても試練の冬越しなのは間違いのないようです。



● 1月12日 オオハナワラビの花

シダのなかまは、葉の裏に胞子をつけることがよく知られていますが、中には特別な葉を別に伸ばして、そこに胞子をつける種類もあります。山菜で有名なゼンマイもそうですし、ツクシもそうです（ちなみに、ワラビは葉の裏につけるタイプ）。

オオハナワラビは長田谷津の斜面林で時々見られるシダの一種です。冬になると普通の葉とは別に、まるで花が咲く茎のように胞子をつける葉を伸ばします。シダなので厳密には花は咲きませんが、その姿から「花蕨（はなわらび）」の名がついたようです。



● 1月23日 ホソミオツネトンボ

成虫で冬越しするチョウがいれば、成虫で冬を越すトンボもあります。ホソミオツネトンボは「細身越冬とんぼ」で、トンボの姿のままで冬を越すことにちなみます。こちらはウラギンシジミと違い、一度越冬に入ったら、春までだいたい同じ場所にいるようです。普通は落葉樹の枝にとまって小枝に化けて冬越ししますが、長田谷津ではトクサの先端にとまって越冬する姿が見られます。

越冬態勢に入ったホソミオツネトンボを見つけるのは簡単ではありません。わずか1メートルの距離からでも、指ささないとうからないくらいです。



こちらの内容は、

20年分の自然観察の記録を使ってつくった暦(毎日のできごと)を掲載した
ガイドブック「長田谷津いきもの暦」を参考に作成しました。

企画展会場でのみ販売(ホームページでは見られません) 500円

企画展 長田谷津いきもの暦

平成23年1月30日まで

会 場 自然博物館(市川市動植物園内) 特別展示室

毎月展示を替えて、その月の見どころをパネル・標本・飼育などでご紹介いたします。

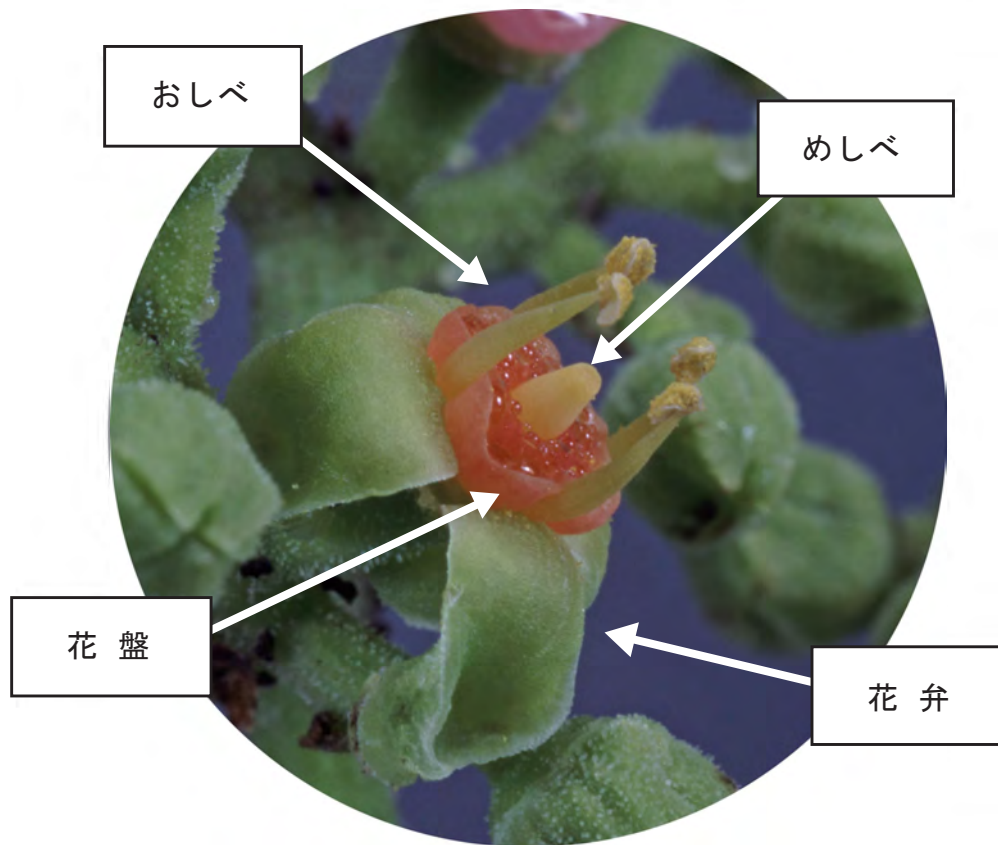
拡大花図鑑

その10

ヤブガラシ

(蜜を満たした皿)

花は「花弁（花びら）」「おしべ」「めしべ」「めしべの根元にある「お皿」のような部品で、蜜が分泌されてたまっています。花の蜜は奥底に隠されています。花の蜜が多いのですが、花盤の発想は逆で、お皿に蜜をためて虫を呼び寄せます



ヤブガラシの花に来たキゴシジガバチ

蜜がむき出しでたまっているヤブガラシの花は、チョウのような長い口を持たない昆虫にとって、簡単に蜜が手に入るありがたい存在です。

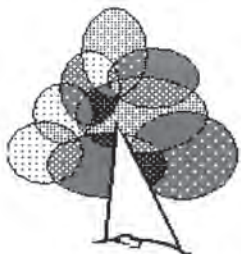


街かど自然探訪

おじゃまします!

ひがしおおわだ 東大和田・駐車場のスズメ

住宅に囲まれた駐車場の草むらから、スズメのにぎやかな鳴き声が聞こえてきました。フェンス越しに近づいてゆくと、ぱっと九羽のスズメが飛び出してきましたが、草むらからは1mも離れません。少し離れると、すぐに草むらに戻ってゆきました。また近づくとぱっと飛び出し、3回目には電線に飛んでいってしまいましたが、やはり駐車場が見える場所からは離れません。草むらは、実のついたエノコログサとメヒシバでどちらもイネ科ですから、スズメにとってはおいしいご飯なのでしょう。庭木のミカンやカキを狙う、ヒヨドリやムクドリなど、街中の鳥たちにとっても秋は実りの季節です。



くすのきのあるバス通りから No.76

キツタの花

八幡6丁目と東菅野1丁目の境の道路を歩いていると、ブンブンとハチの羽音が聞こえてきました。「や、や、何だ、何だ」と見回すと、広いお庭のフェンスの周りにたくさんのハチやら、アブやら飛び回っていました。キツタの花が咲いていて、その蜜が目当てのようです。ヤツデの花に似ています。花弁が付いているものは蜜のツブが見えます。花弁が落ちたものは蜜が白く乾燥しています。実

かなと思ったものは蕾でした。「ハチが集まるのだから、甘いかも」と舐めてみましたが、期待はずれでした。

春はフキノトウ、サクラ、池があるらしく、カエルが道で轢かれたり、夏はサクラにセミが集まり、夕方カラスウリの花が見られ虫の音が聞こえ、カシワの木もある「あまり手入れされていないのがいいなあ」と思うお庭です。

(M. M.)

10・11 月の企画展より

カブトやクワガタの幼虫

今年は、博物館でもカブトムシやクワガタの幼虫を飼育しています。来年の展示用やさまざまな普及活動で利用するためです。せっかく飼育しているので、なんとか展示しようと思い、工夫してみました。

土の中に潜らせたままコンテナで展示し、都度、掘り起こして見せたりもしましたが、手間が大変です。そこで、薄いプラスチック容器に入れ込んでそのまま展示してみました。最初の頃はなかなか透明な面に体が出てきませんでしたが、やがて成長して体が大きくなると、少なくとも体のどこか一部は見えるようになりました。



容器がひとつだとうまく見えないことがあるので、複数用意して、どれかひとつでも幼虫の体が見えるようにしました。

ガマの穂

博物館に隣接する自然観察園には、ガマが多数生育しています。秋になると大きな「ガマの穂」が目立つようになり、やがてはじけて綿毛のタネがふわふわと舞い始めます。

ガマの穂の展示だけなら、切ってきて飾ればいいので簡単です。綿毛のタネのフワフワ感を知っていただくために、透明樹脂性の容器にタネを半分ほど入れて展示しました。容器には「さかさまにしてみてください」と表示し、容器をひっくり返すと、その中で綿毛のタネがゆっくり落ちる仕掛けです。

最初のうちはなかなか手に取ってもらえませんでした。あらかじめ容器をさかさまに置いておくこと意図がうまく伝わり、体験してもらえるようになりました。



展示台には、切ってきたガマの穂（背が高い）、透明樹脂容器（手前左）、「ガマの花の写真」と「綿毛が舞い散る写真」を展示しました。

わたしの 観察ノート

◆長田谷津より

- ・ヨシが枯れてしまうほどの暑く強い日差しの中、湿地のツユクサは少しづつ咲き始めました (9/4)。

金子謙一 (自然博物館)

◆大町より

- ・ヒガンバナがようやく咲き始めました (9/24)。秋分の日を過ぎていますが、咲いていたのは2輪です。ヒガンバナの開花は遅れているようです。

宮田明吉 (自然博物館)

◆大野町より

- ・梨畑からアブラゼミの鳴き声が聞こえました (10/23)。

◆市川東高校周辺より

- ・桜並木からツクツクボウシの鳴き声が聞こえてきました (10/23)。夏ほどの元気な鳴き声ではありませんでした。

◆江戸川河川敷より

- ・河川敷の草むらにシロヘリクチブトカメムシの5齢幼虫がいました (9/12)。

K. H. さん

◆じゅん菜池公園より

- ・一番奥の湿地の草原から、ツミ雌1羽がいきなり池沿いのニガキ(?)の枝の低いところに飛び上がるのを見ました (10/17)。ウォーキングの人たちが真下を通り過ぎても意外なことにまったく動ぜず、また、カラスに追い立てられても、ほんの少し移動するものの遠くに逃げる気配はありません。どうやら、仕留めた獲物が草地にある可能性が大です。こんなに近くでじっくりとツミの美しい羽根の模様を見られたのは、初めてです。

◆小塚山公園より

- ・混群にシジュウカラ、コゲラ、メジロの外、ヤマガラとムシクイ類が少なくとも1羽、そしてサンコウチョウの雌タイプ1羽が混じっていました (9/11)。とくに、サンコウチョウは一声だけでしたが、ホイホイホイと鳴きました。秋でも鳴く時はあるのですね。

◆坂川旧河口一帯より

- ・セイタカシギ1羽が、里見公園先江戸川の水面に近いところを下流に向かって飛びました (10/10)。江戸川を蛇行しながら飛んでいて、東京都側から市川市側へと移動していきました。一帯では、はじめての記録です。(とにかく、驚きました。)
- ・ビオトープ池先江戸川べりの木にとまり、アオサギ1羽が昨日の雨で濡れた翼を陽に向けて乾かしていました (10/11)。

以上 根本貴久さん (菅野在住)

◆東浜より

- ・海浜植物も「あつい」と言って殆ど咲いていませんでした (9/4)。ハチジョウナが、数株咲き残っていました。アサリ、オオアサリ、パカガイ、マテ貝を潮干狩りの人が採っていました。ミヤコドリ、ハマシギ、ミユビシギ、ダイゼン、オバシギ、オオソリハシシギ、キョウジョシギ、ウミネコがいました。

道下誠さん (中国分在住)

いつまでも暑く厳しい夏でした。台風の通過で一気に秋になり、からから天気も一転。曇りの日が多くなりました。



行事案内



長田谷津 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しめます。

- ・日時 1月8日㊥、2月5日㊥、3月5日㊥、午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

季節を感じる 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

*集合場所など、詳しくは博物館に直接おたずねください。

テーマ	日時	場所
江戸川沿いの林	平成23年1月16日(日)午前10時～11時30分	国府台周辺
真間川散歩	平成23年3月20日(日)午前10時～11時30分	鬼越～菅野

自然講座

お申し込みの必要はありません。直接会場にお越しください。

いろいろな自然の話題を紹介する、室内講座です。

- 時間 午後6時～8時
- 会場 八幡市民談話室 (国道14号線本八幡駅前交差点角)
- 内容

1月22日㊥	「長田谷津のおいたち」	担当：宮橋美弥子
1月29日㊥	「千葉県の絶滅危惧種の蝶・蛾②」	担当：清野 元之
2月 5日㊥	「花に関する基礎的な話」	担当：金子 謙一
2月12日㊥	「市街地のいきもの」	担当：須藤 治

長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いして下さいますか。

(雨天中止)

- ・日時 12月19日㊥、1月30日㊥、2月27日㊥ 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けのお手伝いをして下さいますか。

(申し込み不要・雨天中止)

- ・日時 3月6日㊥、午前10時～12時 (12、1、2月はお休みです)
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、博物館までお電話でお問い合わせください。

企画展

「長田谷津いきもの暦」

博物館特別展示室で開催中

平成23年1月30日まで

年末年始のお休みは

年末は26日まで

年始は3日より開館します。

第22巻 第5号 (通巻第131号)

平成22年12月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047 (339) 0477

<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/haku/>